

問に対し、1年生の75%、2年生の82%が「興味深く聞くことができた」と回答した。また、留学生の英語は理解できましたか」という質問に対して、1年生の66%、2年生の59%が「理解できた」と回答した。

このクラス毎の講演会は、教室という狭い空間を効果的に利用し、少人数で実施することで留学生を身近に感じることができたようであり、アンケートの結果からも生徒の英語学習に対するモチベーションが高まったことが伺える。

*資料9 「International Day についてのアンケート集計結果 2年」

(3) 国際理解交流体験の実施

・実施内容

平成16年9月11日（土曜日）に、国際協力機構筑波国際センターを訪問した。当日のプログラムは、青年海外協力隊OVの体験談、開発教育ゲーム、エスニック料理体験、研修員との意見交換である。

青年海外協力隊OVの体験談では、青年海外協力隊OVの高柳妙子氏からパキスタンでの識字教育の体験談を伺った。パキスタンという国をよく知らない生徒たちにとっては、高柳氏の体験談は新鮮な驚きの連続であったようだ。

また、研修員との交流ではたどたどしい英語でも自分の考えが相手に伝わることの喜びを知り、英語の学習に対するモチベーションがかなり高まったようであった。

<高柳妙子氏の体験談を聞いた生徒のアンケートより>

- ・「私はパキスタンと聞いて思い浮かぶようなものは無かったし、その国のある場所すらあやふやでした。そして、その国の人で読み書きができるのは2・3%くらいと聞いた時はものすごいショックを受けました。この体験談を聞いた後、私もこういう国のために何かしたいと思いました。」
- ・「今回の話を聞いてみて一言で言えば未来を作る子供を育てる活動である事、その具体的な活動を知ることができた。それに参加したいと思った。でも、その反面気持ちだけじゃダメなんだって事にも気がついた。」
- ・「私は昔から世界を舞台に働きたいと思っていたので、高柳さんの仕事にもすごい興味を持ちました。その中で私は一つ自分を変えていかなければいけないなど思ったことがあります。それは、もっと自分を前に出すことです。」
- ・「発展途上国への協力は、先進国としての責務ですが、何も相手を知らずに援助するのは間違った協力に繋がりがねません。そのためにも私たちがこのように現地の声に接する機会を増やせれば未然に防げると同時によりよい協力ができるのではと、改めて感じました。」

このように、高柳さんの体験談を聞いた生徒たちの内部では、問題意識を持ち始め自分に何ができるか、そのために自分をどう変えていけばいいのかという変化が見られた。

<研修員との交流についての生徒の感想文より>

- ・「英語を勉強することは、英語圏の人と話すだけでなく、いろいろな国の人とも英語を使えばコミュニケーションができるという事は素晴らしい事だと思います。」
- ・「昼食のあとは、中国から来ている方にインタビューしました。今まで習った簡単な英語でもいろいろなことがたくさん聞けて、それに対して答えが返ってくると嬉しくなりました。」
- ・「他の国からの研修員の方々は、何か英語の上手、下手とか関係なしに相手と話したいっていう態度が強く出てるから、すごく相手に伝わりやすいのかなあと感じた。」

このように、英語をコミュニケーションの手段として、英語が母国語でない国の人々とも意思を伝え合うことができるのを実感できたようである。英語を学ぶモチベーションがかなり高まったと思われる。